

大人用

伝道地便り

2019年 第2期 南アメリカ支部

第1話 「聖書を手にしてきた人々」

ペルー

第2話 「イエス様のために」

ウルグアイ

第3話 「赤ちゃん宣教師」

アルゼンチン

第4話 「新年の願いごと」

ブラジル

第5話 「すぐに聞かれた祈り」

ブラジル

第6話 「疲れた宣教師たち」

ブラジル



セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 聖書を手にしていった人々

ペルー



アレハンドロ・クエラー 52歳

アレハンドロは18歳で小学校に入学しました。

18歳と聞くと遅いと思う人もいるかもしれませんが、彼の育ったカカコロ村では1980年代の当時、それが普通でした。村の人たちは、教育を受けるよりも農場で働く方が、子どもにとって大事だと考えていたのです。

ある日アレハンドロはクラスの子が学校に持ってきたラジオで、「世界の終わりの日」に関する宗教的なラジオ番組を聴きました。彼は怖くなりました。そして、このことについてもっと知りたいと思いました。

彼の願いはすぐに叶いました。そのラジオ番組のプロデューサーが、アレハンドロの学校の体育館で夜の講演会を催したのです。イエス様がすぐに来られるという話を聞き、アレハンドロの心は喜びでいっぱいになりました。

他の村人たちもその講演会を喜んでいたので、ラジオ番組の主催者たちは彼らのために教会を建てました。アレハンドロと友人たちは、

農場の仕事がないときにはいつもその日曜礼拝に出席しました。

教会の4人の役員たちは、村人たちの関心が強いを感じ、一人ひとりに聖書をプレゼントしようと決めました。そこでバスで1時間のクスコという最寄りの町に行き、聖書を探しましたが、どこにも見つけることができませんでした。

ある朝、4人の役員たちはクスコの石畳の通りをトボトボと歩いていました。すると、聖書を手にした人々が、建物に入っていくのが見えました。そこが聖書を売っている本屋かもしれないと思って、役員たちは彼らについてその建物に入っていました。そこはセブンスデー・アドベンチストの教会で、人々は安息日学校に出席するところだったのでした。

そこで役員たちは安息日学校と礼拝に出席しました。昼食にも招かれて、午後には教会員と聖書を学びました。彼らはそこで学んだことに感動して、お互いにこう言いました。「私たちは終わりの時のメッセージを、半分しか知らなかった。この人たちはその全部を知っている。」

彼らはその場で、アドベンチストになることを決心しました。そして牧師に、聖書の真理をすべて、村人たちに説明してくださいと頼みました。教会員の二人が、彼らについて村に来て、翌日の日曜日に教会で説教をしました。

アレハンドロはその日、農場で働いていたので礼拝には行けませんでした。しかし友人が来て、次の日曜には教会はないよ、と教えてくれました。教会がセブンスデー・アドベンチストになったので、次の礼拝は土曜日だということです。

アレハンドロは、何が起こったのか知ろうと、

土曜日に教会に行きました。彼はエデンの園で神が与えた教えや、第七日安息日を遵守するようという十戒の第四条の教えを含む、新しい真理を聞き、それが真理だと確信しました。そして彼はアドベンチストになりました。

アレハンドロはそのとき 19 歳でしたが、間もなく学校を中退して、農場の働きをフルタイムするようになりました。そして、聞いてくれる人に、イエスがすぐに来られるということ話を話始めました。

アレハンドロのイエスへの愛は、驚くべき結果をもたらしました。この、背の低い、教育もほとんど受けていない平凡な男性は、この 30 年の間に 6 つの教会を建てたのです。彼はバプテスマを受けた直後の 1985 年に最初の教会を建て、その後 3 年から 5 年おきに新しい教会を建てていきました。自分の建てたその教会に行くために 5 時間歩くこともあります。彼の影響で、800 人以上がバプテスマを受けました。

アレハンドロは今 52 歳ですが、神が今まで自分を通して行ってくださったことについて、神を賛美しています。彼は、このことは、あの安息日の朝、教会の役員たちがクスコの教会で出会った、聖書を手にした忠実なアドベンチストたちのおかげだと言っています。

「教会に行くときは聖書を常に手に持つていくことが重要だと思います。他の人たちが見たときに、私たちがクリスチャンであることがわかるからです。もしクスコのセブンスデー・アドベンチストたちがあの日聖書を持っていなかったら、私の村は真の教会を見つけられなかったかもしれません。」

彼の村には 500 人の村人がいますが、現在そのほとんどがアドベンチストです。教会にはバプテスマを受けた教会員が 300 人います。

今期の 13 回献金の一部は、クスコにコミュニティセンターを作るために使われます。そこでは子どもや若者に対する英語のクラス、音楽のクラス、そしてその他の活動が行われます。コミュニティセンターの目標は、この地域に新

しい教会を建てることです。皆さんの献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

- このお話の写真は bit.ly/fb-mq で見られます。
- アレハンドロは、ペルーの多くの村人がそうであるように、ケチュアという現地の言葉しか話しません。彼にインタビューするために、伝道地便りのスタッフは、ケチュアからスペイン語にしてくれる人と、スペイン語から英語にしてくれる人、2 人の通訳を必要としました。
- 聖書を持っていた教会員のいたクスコの教会は、食べ物、お金、そして宗教的な資料を提供することで、アレハンドロの伝道活動を大々的にサポートしています。
- アレハンドロの動画は bit.ly/Alejandro-Qquerar で見られます。

2. イエス様のために

ウルグアイ



ミゲル・アマロ・スペランザ 69 歳

ミゲルは 69 歳ですが、エネルギーに満ちあふれています。

あるとき、友人のディノ・フェルナンデスに頼まれて、ウルグアイの首都モンテビデオの貧困地区にある、ディノの家に聖書研究に出かけました。

二人はその地区の他の家でも聖書研究をしました。そこにはまだセブンスデー・アドベンチスト教会はありませんでした。

聖書研究の参加者たちは 1 年後に開かれたダニエル書と黙示録の連続伝道講演会に出席して、16 人がバプテスマを受けました。

「講演会の後、私たちは教会が必要だと思いました。」とミゲルは言います。

ミゲルは、教会員と 16 人の新しく加わったメンバーと一緒に、家を借りて毎週安息日に礼拝をしました。

教会のメンバーが近所の必要に応じて食べ物や服を配って歩いていると、集会の出席者も増えていきました。借りていた場所が手狭になり、教会員たちは集会をもつ場所と地域への奉仕活動の両方を拡大するにはどうしたら良いのか考え始めました。

2016 年、13 回献金によって、ラテハ・セブンスデー・アドベンチスト教会は、教会の建物とライフスタイルセンターを購入することができました。

そのおかげで可能となった新しい働きをミゲルは楽しみにしています。

ミゲルは、健康的な料理教室をしているキッチンでのインタビューで次のように言いました。「私たちの計画は、ホームレスを含む、近隣の人々に仕えることです。この周りには貧しい人が沢山生活しています」。

二つ目の話

ミゲルが人々をキリストのもとに導いたのは、これが初めてではありません。彼はエルブラド・セブンスデー・アドベンチスト教会の教会員と一緒に、モンテビデオの危険な地区に段ボールの小屋を建てて、不法に住みついている人たちを定期的に訪ねていました。

ミゲルは言います。「安息日ごとに私たち 5 人は、25 か所で聖書研究会をしていました。いつも食べ物も持って行きました。人々の必要を満たしつつ、心にも触れたいと願っていたのです。」

教会員たちは、47 人の大人と 90 人の子どもたちに対し、継続的に支援を行いました。雨季の洪水から身を守ることでできる家も建てました。

やがてその地域の住民も教会に来るようになりました。馬や荷車に乗ってくる人もいました。この働きによって、21 人がバプテスマを受けました。

三つ目の話

ミゲルはウルグアイのアドラで 27 年間働きました。そのとき出会ったホームレスのウォルターとのことは、良い思い出として特に心に残っています。ウォルターは糖尿病で、脚を切断しました。彼はある日モンテビデオにあるアドラセンターを

訪ねて来ました。

ウォルターには食べ物も、行くところもありませんでした。ミゲルは彼と知り合いになり、彼の求めに応じて、聖書研究をするようになりました。

ある日、ミゲルは料理をしながら安息日の説教の準備をしていました。ウォルターが、「今度は何を話すのですか？」と聞いてきました。

ミゲルは、今回の説教の話は、冷蔵庫のドアに貼ってあった絵からヒントを得たと話しました。そこにはごみの中に糸を垂らして魚を釣ろうとしている子どもの絵と、「あなたは何が不満なの？」という言葉が書かれていました。

ミゲルは聖書を開き、ルカによる福音書9章13節を読みました。イエス様がパンと魚の奇跡を行う前に、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」と弟子たちに命じる場面です。

そして、ミゲルは料理を続けました。ウォルターは紙に何かを書き始めました。しばらくして、ウォルターはミゲルに紙を渡して言いました。「もし何かの役に立つなら、説教で使ってください」と。

ミゲルはそれを説教で読み、会衆は涙を流しました。

ウォルターが書いたことは、まるでイエス様からのメッセージのようでした。そこにはこうありました。「あなた方は不満を言っています。でも周りを見てください。家や食べ物や着るものがない人々がいます。あなたには、休む場所も、食べ物も、着るものもあるではありませんか。」ウォルターは続けて自分のことも書きました。「私にはかつて友人がいました。私と一緒に酒を飲み、踊ってくれました。でもその人たちは自分の問題について不満を言っています。そんな人たちに私は言うのです。『何に不満があるんだい。私を見てごらん。私は糖尿病で、脚が無いんだよ』」

それから何か月かして、ウォルターはバプテスマを受けました。水からあがりながらウォルターは「ありがとう、イエス様！」と叫びました。

その勝利の叫びが、今もミゲルの耳に残っています。バプテスマの1か月半後、ウォルターは亡くなりました。ミゲルは言います。「天のお父様が

迎えに来てくださるとき、ウォルターにまた会えることを願っています。彼と再会すること、そして、神様が福音を伝える機会を与えてくださった人みんなと再会することが私の望みです」。

2016年にラテハの教会のために捧げてくださった13回献金に感謝します。

〈お話のヒント〉

・ bit.ly/Miguel-Speranza で、ミゲルがラテハ・セブンスデー・アドベンチスト教会で話している様子が見られます。

・ このお話に関する写真は bit.ly/fb-mq で見られます。

宣教メモ

・ ウルグアイの最初のセブンスデー・アドベンチストの学校は、1908年にヌエバ・エルベシアにあるフリオ・エルンストの自宅に組織され、オットー・ハイデカーが教師でした。現在プログレソにあるウルグアイ・アドベンチスト・アカデミーは、1944年に設立されました。

3. 赤ちゃん宣教師

アルゼンチン



マルセロ・フェルナンデス

妻と私は子どもが欲しいと願い、「もし御心でしたら、子どもが生まれますように。または、養子を迎えることができますように。」と14年間祈ってきました。

しかし検査の結果、子どもが生まれる可能性はとても低いことがわかりました。また、アルゼンチン国内では養子を迎えるのが難しいこともわかりました。

その後、遠く離れた国で神様の働きをする機会が与えられました。私たちは「神様は、違った国で養子を持てるようにしてくださっているのかもしれない。」と思いました。

すべては順調にいきました。5年間外国で働きたいという私たちの願いに対して、セブンスデー・アドベンチストの南アメリカ支部も、相手国の教会指導者も、関係する政府当局も、皆許可を出したのです。

ちょうどその頃、妻エリサの妊娠がわかりました。

エリサにはユーモアのセンスがあり、私にその

ことを知らせる時、隠しカメラを用意して私の反応を録画していました。

私は小さな箱を渡されました。空箱かと思いましたが、そこには妊娠検査の結果が入っていて、取り出すとそこには陽性とありました。

私は驚きと喜びでショックの状態でした。ビデオに映った私は、妻を抱きしめることも忘れて手に持った検査結果をじっと見つめていました。

そのとき次のような思いが渦巻いていました。「神様、なぜ今なのですか。今は最悪のタイミングです。これで、政府当局も、相手の教会の指導者も、南アメリカ支部も、行ってはいけないと言うに違いありません。子どもにはお金がかかりすぎるし、働きの妨げになるからです。」

神様の完璧なタイミング

けれども神様にとっては、このタイミングは完璧でした。

妻の妊娠を困ったことだと言う人は誰もいませんでした。政府当局でさえ、私たちが恐る恐る尋ねた質問に対し「問題ありません。私たちの国の人は子どもが大好きです。」という返事をくれました。

息子のエゼキエルは、私たちがその国に着いた3か月後に生まれました。彼と一緒にいると80%の人たちがドアを開けてくれ、私たちは神様の良い証し人となることができました。

現地の人たちは子どもが大好きでした。外国人の子どもはなおさらです。よく呼び止められ、写真を撮られました。孫を連れてくるお年寄りも、私たちと親しくなって子育てのコツを教えようと、話しかけてきました。

アパートでもスーパーでも公園でも、私たちは息子を通して人々と親しくなりました。私たちは子どものお誕生会やそのほかのお祝いに、人々を

招きました。多くの親たちがエゼキエルに自分の子どもと仲良くしてほしいと思っているようです。そして、息子のいる安息日学校に行ってもいいかと聞いてきます。同じアパートの、ある夫婦にはエゼキエルと同じ年の娘がいて、よく遊びにきます。彼女には英語の聖書をプレゼントしました。

私たちの子どもへの接し方は、思ってもいなかったほどの影響を周りに与えました。神様は私たちに、お行儀のよい息子をくださいました。人々は私たちが子どもを抱きしめている姿や、幸せそうにしている息子の様子を見て、神の愛をいっそう理解するのです。

二つ目の奇跡

エゼキエルの証の力を喜んでいるうちに、驚くべきことが起こりました。妻がまた妊娠したのです。今度は女の子が生まれました。

地元の人にとって、私たちに息子と娘がいるということは素晴らしいことでした。道行く人々が私たちを呼び止め、息子と娘がいることは完璧なことだと話してくれました。私たちは微笑み、お礼を言って、神様こそ完璧な方だと証しました。

なんと力強い証でしょう。

イエスはマタイによる福音書 24 章 14 節で、「そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。」とおっしゃいました。

私たちの証は、私たちの言葉よりも雄弁に語ります。神様は私たちに、生きた証となってほしいと思っておられ、それをより深い方法で経験するチャンスをくださっているのだと思います。

神様は私の息子を通してマタイによる福音書 24 章 14 節を実現し、再臨への道備えをさせていただきました。エゼキエルの冠には私や妻よりも多くの星が既についていることでしょう。

神様が私たち罪びとに、彼の計画は常に良いものであるということをお教えたことを感謝しています。主はイザヤ書 55 章 8 節でこう言っておられます。「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。」

神様の計画は完璧です。

〈お話のヒント〉

- ・複雑な地域でのこの家族の働きを守るため、名前は変えてあります。同じ理由で、今週の動画はありません。
- ・このお話に関する写真は bit.ly/fb-mq で見られます。

宣教メモ

- ・アルゼンチンには 606 の教会と 438 の集会所があります。教会員は 116,391 人います。国民の 381 人に一人の割合です。
- ・アルゼンチンの最初のアドベンチストは、1890 年代初頭にアメリカのカンザス州タンパからエントレ・リオス州ディアマンテに来た 4 つの家族です。彼らはドイツ人の農夫で、ロシアに入植していましたが、のちにアメリカに移住して、アドベンチストになりました。
- ・1896 年 7 月に、アルゼンチンで初めてのアドベンチストキャンプミーティングがエントレ・リオス州クレスポで開かれ、150 人が参加しました。

4. 新年の願いごと

ブラジル



ベアトリス・デ・ジェズース・サンタナ 23歳

ブラジルのイタパリカ島の浜辺で、若者が大晦日のパーティーをしていました。ワイングラスをかかげながら、一人ひとりが新年の願いごとをしています。

「神様、新しい年を恵みに満ち溢れたものにしてください。」と一人が言うと、

「私はお金持ちになりたい。」と別の子が言いました。

「彼氏が欲しいわ。」と言う子もいました。

ベアトリスは自宅のあるサルバドールから1時間フェリーに乗ってこの浜辺に来ていましたが、友だちの話を聞きながら、このようにパーティーをすることだったり、お酒を飲んだりしていることが、果たして自分にとって良いことなのかと考えていました。そしてこう言いました。

「私は神様に願いごとはしたくないわ。それより、今年起こった良いことに感謝したいの。大学の奨学金ももらえたり、エンジニアリング会社でのインターンシップも楽しいわ。今年は良いことがたくさんあったのよ。」

次の月曜日、ベアトリスは職場で気分が悪くな

ってしまいました。週末の疲れが出たのです。

上司のアナ・クリスティーナが心配そうに横に座って、携帯電話を取り出しました。そしてその携帯で、3分間の動画を見せてくれました。

ベアトリスは、動画で牧師がイエス様について話しているのを、興味深く聞きました。その牧師は、友人たちのようには話していませんでした。

次の日の朝、ベアトリスはアナ・クリスティーナから、スマホアプリを通してまた3分間の動画を受け取りました。次の日もまた別の動画が届きました。ベアトリスはすべての動画を見て、牧師のその穏やかな物腰に強い印象を受けました。両親が離婚していたベアトリスは、父親と住んでいましたが、父親はいつもお酒を飲みすぎて、二人はよく口喧嘩をしました。この口喧嘩が、ベアトリスが遊び歩くようになった大きな原因でした。

何日かして、ベアトリスはネットでこの牧師の名前を検索しました。そして、イバン・サライバ牧師が、セブンスデー・アドベンチストのホープチャンネルをブラジル支部で行っており、ノボ・テンポというテレビ局でポルトガル語の番組の司会をしていることを知りました。

ベアトリスはその番組を見始めました。そして、この牧師が真理を語っているのかどうか、聖書を読んで確認していきました。十戒と第七日安息日について聞いたときは、とても驚きました。

ベアトリスは、3週間その番組を通して聖書を学び、そして、今までの生活を赦してくださいと神様に願いました。心を神様に向けて開いたとき、生まれて初めて、お祈りを聞いてくださっていると信じることができました。

それから彼女は、集会に出席したいと思って教会を探し始めました。友だちは日曜教会に誘ってくれましたが、ベアトリスは第七日安息日についての十戒第4条を思い出し、なぜ友だちの教会が聖書に従わないのだろうかと思っていました。

アナ・クリスティーナはベアトリスが神と新しい関係を築いたのを知り、自分の教会に誘いました。そこでは何十人もの人々が、小グループで集まって、安息日やその他の曜日に聖書を学んでいました。

ベアトリスはすぐにこの教会が気に入りました。「ハグされて、とても歓迎されているのを感じました。平安を感じたのです。」と彼女は言います。

人々の接し方にも驚きました。そしてこう思いました。「なぜこの人たちは私のことをこんなに気遣ってくれるのかしら。私のことを知らないのに、『良い一日を』と言ってくれる。私の聖書の知識がどれくらいあるか、私がどうやって勉強しているかを知りたがるし、どこの誰だかわからない私のことを気にかけてくれている。」

アマンダとビートルという若者が、毎週安息日に、聖書研究をしてくれました。ついにベアトリスは、イエスに心を捧げる決心をして、教会の庭にあるプールでバプテスマを受けました。アナ・クリスティーナはそれを見てうれし涙を流しました。

今ベアトリスは、父親、母親、兄もイエス様を受け入れるようにと祈っています。兄は既にベアトリスと同じテレビ番組で聖書を学び始めています。

ベアトリスは次のように言います。「私は奇跡を信じていませんでした。そんなものは不可能だと思っていたのです。しかし私の心の空洞は、パーティーやお酒では埋められませんでした。この空洞はイエス様だけが埋められる、大きな穴だったので。」

去年の大晦日、ベアトリスはアドベンチストの婚約者とその家族の家で過ごしました。みんなでぶどうジュースを飲み、神の恵みを賛美しました。彼女は言います。「私はもっと神様に近づきたいです。心の中の神への愛が、決して終わらないことを願っています。」

今期の 13 回献金の一部は、ベアトリスが通っている教会が、借家から大きな建物に移るために使われます。そこでは健康的な料理法の教室や、

健康セミナーを開くことができます。皆様からの献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

- bit.ly/Beatriz-Santana で、ベアトリスの動画が見られます。
- このお話に関する写真は bit.ly/fb-mq で見られます。

宣教メモ

- ブラジルには、9,006 の教会と 8,813 の集会所があります。教会員は 1,666,125 人いて、これは国民 125 人当たり一人の計算になります。
- 1939 年にアントニオ・アルバス・デ・ミランダ医師の指導の下、ポア・ピスタ・クリニックを設立することで、ブラジルにおけるアドベンチストの医療の働きが始まりました。1942 年に、そのクリニックはサンパウロ・アドベンチスト病院になりました。このとき指導したのは、大学の先生の職をなげうち、医療伝道の働きに献身したガルディノ・ヌネスヴィエイラ医師でした。

5. すぐに聞かれた祈り

ブラジル



ジルベルト・フェレイラ・ダ・シルバ 68歳

ジルベルトは現役時代、銀行のマネージャーをしていましたが、教会に行ってみたくと思ったことは一度もありませんでした。でもなぜか、聖書を読みたいという強い気持ちが突然芽生え、その気持ちを抑えられずに、独学で聖書を学び始めました。

ジルベルトは聖書の内容に驚きました。しかし、所々わからないところがあり、その意味は何だろうと首をかしげることもありました。そして誰かに聖書を説明してもらいたいと思っていました。

その年の大晦日、ジルベルトは家族の恒例行事であった花火見物には行かないことにしました。

そして3人の子どもたちと奥さんに、「花火には私抜きで行ってきなさい。今年は行かないから。」と言いました。

彼にはある計画がありました。お祈りをしようと思っていたのです。

家族が出かけると、神様に、聖書を教えてください、真の教会を示してください、と祈りました。

「神様はその祈りに、どの祈りよりも早く応え

てくれました。」とジルベルトは言っています。

本人は気づいていませんでしたが、その祈りは第七日安息日に捧げたものでした。その年の大晦日は土曜日だったのです。翌1月1日は日曜日でした。

月曜日、その年の仕事始めの日に、以前、働いていた銀行から電話がきました。ジルベルトの投資について、新しい契約をするので署名をしに来てほしい、という内容でした。

銀行でジルベルトはかつての同僚を見つけ、彼がクリスチャンだったことを思い出しました。契約書に署名をした後、元同僚のアルバロのところに行き尋ねました。

「アルバロ、聖書を学べる場所があったら教えてくれないかい。でも牧師に紹介はしないでほしいんだ。クリスチャンにしようとしなくていい。聖書を学びたいだけだから。」

アルバロはセブンスデー・アドベンチストでしたが、ジルベルトはそれを知りませんでした。

アルバロは、「カブーラに行けば聖書の勉強ができるよ。」と、自分の行っているアドベンチスト教会のある地区を教えました。しかしジルベルトは、そこは遠すぎて交通の便が悪いから行けない、と言いました。

アルバロは少し考えて、「ちょうどいい場所を知っているよ。普通の教会ではない場所で、聖書の学びだけをやっているところがあるんだ。」と教えてくれました。

翌日の火曜日、アルバロは、シェアリング・ジーザスという家庭集會にジルベルトを誘いました。そこは小グループの集まりで、みんなで賛美し、聖書を学んでいるところでした。でもジルベルトは、知らない人ばかりのところに行くのは気後れがしました。妻と一緒に行くことを断ったので、友人のレジーナと一緒にきてくれるよう頼

みました。

ジルベルトはその集まりでの聖書の学びにすっかり魅了され、レジーナに次の集会にも一緒にきてくれるように頼みました。

レジーナは、「行くのはかまわないけれど、教会員にはならないからね」と念を押しました。

その後も、レジーナはジルベルトに付き添って毎回集会に参加しました。彼女は、集会の後にビーチで泳げるよう、よく下に水着を着てきました。

ジルベルトは、その年の終わりにバプテスマを受けました。それは2006年12月31日のことでした。

「誰が私と一緒にバプテスマを受けたと思いますか？」ジルベルトは目をキラキラさせながら言いました。「私の母です。」

ジルベルトはバプテスマを受ける少し前に、バプテスマを受けることを母親に告げました。母親は、ジルベルトの姉オデットと一緒に、ブラジルの田舎に住んでいました。オデットはアドベンチストでした。

ジルベルトが「お母さん、姉さんと同じ教会のバプテスマを受けることにしたよ。」と電話した10分後に、母親は電話をかけ直してきました。そして、「私も一緒に受けようかしら。」と言ったのです。

「準備はできているの？」と聞くと、母親は、「娘が毎日聖書研究をしてくれているよ。」それから続けて、「あなたと一緒にバプテスマを受けるチャンスは逃したくないからね。」と答えました。

そして母親は84歳でバプテスマを受けました。ジルベルトは56歳でした。

友人のレジーナもその翌年にバプテスマを受けました。

今、ジルベルトは68歳で、シェアリング・ジーザスという家の教会のリーダーの1人になっています。今期の13回献金の一部は、この家庭集会在、借りていた家から大きな建物に引っ越し助けになります。そこでは健康的な料理法の教室や、健康セミナーも開くことができます。

ジルベルトは、聖書を理解したい、神様の本当の教会を知りたい、という新年の願いに、わずか

3日で神様が答えてくださり、アドベンチストの家庭集会に導かれたことに驚いています。

この家庭集会でのインタビューに、彼は次のように答えています。「どのようにしてこの教会に来たか、それは神様の愛のおかげです。でも私がここに来続けたのは、私を歓迎し包み込んでくれたこの教会の雰囲気があったからです。この教会は多くの人の偏見を打ち砕いたと思います。私のように、普通なら教会に行かないような人たち、医者や歯医者、弁護士たちがバプテスマを受けています。私たちは教会に行きたくないと思っているような人たちも歓迎します。彼らは一度バプテスマを受けると、滅多に教会を離れることはありません。」

〈お話のヒント〉

• bit.ly/Gilberto-Silva で、ジルベルトの動画が見られます。

• このお話に関する写真は bit.ly/fb-mq で見られます。

宣教メモ

- ブラジルは、南米で唯一のポルトガル語圏の国です。

6. 疲れた宣教師たち

ブラジル



レノ・アギアー・ゲレーラ 32歳

ナタリア・ガルバオ・マリンホ・ゲレーラ 32歳

アマゾンの熱い太陽の下、二人はもう疲れ切っていました。

32歳のレノ牧師と同年の妻ナタリアは、自分たちの船をデモクラシアという辺りな場所にある村に着けて、一軒一軒を回り伝道講演会への招待状を配りました。

それから泥だらけの道を45分歩いて別の村に行き、やはり一軒一軒を回りました。他の2つの村への配付は3人の働き人が担当してくれました。

この宣教師の夫婦は、デモクラシアでの1か月に及ぶ伝道講演会の間、毎日このように家々を回りました。

人々が講演会に集まってきました。多くの人は、宣教師が村人を送迎するために用意した中古のトラックの荷台に乗ってきました。歩いてきた人もいました。しかし、150人が集まった毎日の講演会に、デモクラシアの村人はほとんど来ませんでした。

講演会が2週目に入ると、レノとナタリアは疲

れてきました。毎朝長い距離を歩くことに加え、村人たちの明らかに無関心な態度に、心がくじけてきたのです。

訪ねていくと、訪問販売のようだと文句を言う人もいました。

また、他の人はレノが人を雇って建設していたアドベンチストの教会が出来上がっていくのを不安げに見ていました。村人たちは皆、たった一つの日曜教会に属していて、近くの村で起こった話を聞いて不安がっていたからです。近くの村では、違う教派の教会が入ってきたことによって家族の中でも分裂が起こってしまい、デモクラシア村ではそのような分裂は起こってほしくないと思っていたのです。

ある日、二人は1日の働きを終えて戻ってくると、とても疲れていたため、船に倒れこみました。

「僕たちはなぜここにいるんだろう。畑にはまだ実りがないようだ。この人は誰も聖書を受け入れないような気がする。」とレノが言うと、ナタリアも、「もうここで働きたくないわ。伝道は大好きだけど、この人たちは真理を受け入れないわ。」と言いました。

絶望の中、ナタリアはスマホで聖書のアプリを開き、聖句がランダムに出てくるボタンを押しました。そして、「神様、お願いします。私たちがここにいる理由を教えてください。」と祈りました。

ガラテヤの信徒への手紙6章9節が示されました。「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。」

「これが答えだわ！」ナタリアは叫びました。

翌日、レノとナタリアが伝道講演会の招待状を渡しに行った家でのことです。中年の女性が招待状のホームページのロゴを指さして「これ、私の教会です！」と大喜びで叫びました。「この教会は、この4年間私の教会だったの。私はバプテ

スマを受けたいと思っていたのよ」と。

この女性は、4年前からブラジル版ホープチャンネルのテレビ番組を見ていて、この番組に出ているような説教者が村に来ますように、と祈っていたのでした。

2017年12月に伝道講演会が終わったとき、この女性を含む50人がバプテスマを受けました。

その50人の中には、19歳のフランシーンと16歳のデルシーンという姉妹もいました。二人は、宣教師たちが聖書の約束を伝えてから、講演会に出席するようになりました。二人の両親は講演会に行くことを禁じましたが、それでも二人は出席しました。

「父は私たちの信仰を受け入れてくれません。今日のパプテスマにも反対しているので、二人だけで来ました。」レノがバプテスマの日に録画したビデオでフランシーンはこう語っています。「昨夜、祖母が家に来て父と話しました。父は、もし私たちがバプテスマを受けたら私たちのことを殴ると言っていました。でも、家族が私たちの信仰を受け入れないとしても、私たちはイエス様と一緒にいたいのです。」

レノはこの姉妹が、新しく見つけた信仰について話すのを聞きながら、自分がほんの数週間前には気持ちがくじけそうになっていたことを思い出しました。

「私は、誰も真理を受け入れない、なんて言ってしまったけれど、神様はこの子たちの心に働きかけておられたんですね。」

新しい教会ができると、村に対立が起こると心配していた人々も、考えを変えました。

そして、「この教会はほかの教会とは違うね。」
「私たちのことを考えてくれて、地域を分裂させようとはしていないね。」などと語り合いました。

デモクラシアは、2016年の13回献金によるプロジェクトとして、翌年から始まった3つの連続伝道講演会の最後の会場でした。レノは、この『希望のアマゾン』と呼ばれている「船の教会」の牧師として、この講演会を開催していました。そして2017年のうちに286人にバプテスマを施し、3つの教会を建てました。

船にはエアコンのついた集会室があり、そこにはプロジェクターと音響設備、150の座席がありました。そして、アマゾン川流域の、遠く離れた村々に行くことができました。岸が泥だらけで船を寄せることができないとき、この船はほかの地域での伝道講演会に使われました。

デモクラシアでの集会が終わって、レノとナタリア夫妻は、私たちアドベンチストの働きは失望に終わることはない、ということを確認しました。レノは言います。「この働きをしているのは私たちではありません。神様が、私たちがそこに着く前に人々を備えてくださっているのです。ですから何も心配することはありません。神様が、アマゾンの人たちもテレビやその他の方法で備えてくださっているからです。」

弁護士の仕事をやめて宣教師の道を選んだナタリアは言います。「主が全てをしてくださいます。私たちは、人々を主に導く道具に過ぎないのです。私は毎日この働きを主に感謝しています。」

2016年第4期の13回献金を送り、この「船の教会」の購入を助けてくれた世界中の教会員に、レノとナタリアは感謝しています。

『船の教会』は、政治的、経済的、保健的に忘れられている人々を救うための神様の方法です。これらの人々は、神様には忘れられてはいないのです。」とレノは言います。

ナタリアは言います。「村人たちは宣教師を待っています。イエス様について知りたいと願っています。イエス様は、『ここに私がおります。私をお遣わしてください。』と喜んで言う人を必要としています。」

〈お話のヒント〉

・bit.ly/Reno-Guerra で、レノとナタリアの動画が見られます。

・このお話に関する写真は bit.ly/fb-mq で見られます。

・これを会衆に向けて話す際、お話全体を暗記する必要はありませんが、内容を理解して、読まなくても話せるくらいにしておいてください。

今後の 13 回献金のプロジェクト

来期の 13 回献金は南太平洋支部で、以下の活動のために送られます。

- フィジー、バヌアツ、ソロモン諸島、サモア、アメリカ領サモア、キリバス、トンガの諸国において、「1 万の足を救おう」キャンペーンをします。保健事業により、つま先の切断を防ぐ活動です。
- トンガのトンガタブ島で、ホープチャンネルテレビとラジオのスタジオを建設します。
- オーストラリアで、「子ども向けダニエルシリーズ」という 13 話のアニメシリーズを作ります。8～12 歳の子ども向けプログラムで、ダニエルと 3 人の友人たちの冒険から学びます。